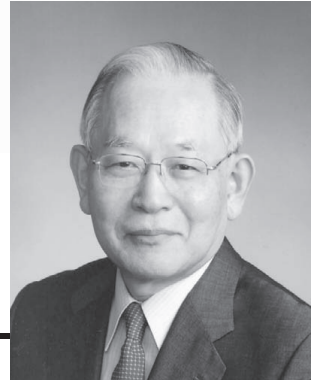


新世代のための月間に寄せて

新世代合同委員長会議 議長
大谷 透 (大阪西南RC)



数年前、私がGEとして青少年交換のオリエンテーションに出席した時のことです。来期派遣学生の英語での自己紹介が始まりました。母親に付き添われたある女子高生の英語が、カタカナをそのまま棒読みしたような全く抑揚もアクセントもないトークだったので、そのような発音を聞いた現地の人は「日本語は英語に似ているなあ」と思うでしょうね、とコメントを述べてしまいました。後で持たれた懇親会の席で彼女を励まそうと思い、近づいて話しかけましたが、よほど私のコメントで傷ついたのか、そっぽを向いたままです。横から母親が気を使い取り繕ってくれましたが、この娘どうなる事かと本当に心配でした。それから数回のオリエンテーションを経て1年間米国に交換学生として滞在、私がDGの時に帰国歓迎会がありました。彼女の帰国挨拶は素晴らしい英語になっており、人間的にも驚くほど成長を遂げていました。そして、このような機会を与えてくれたロータリーに心からの感謝の意を述べていましたが、恐らく彼女にかかわった米国の親代わりのロータリアンは、豊かな愛情をもって彼女に接してくれたのでしょう。それに比べて自分の愛情はどうであったかと反省しきりでした。

ロータリーが新世代のために設けているプログラムはこの①青少年交換のほかに、②小学生むけのニコニコキャンプ、③中高校生のためのインターアクト、④18～30歳のためのローターアクトや⑤RYLAがあります。どのプログラムも参加した者は全て楽しくてためになるすばらし

い経験が与えられたと感謝してくれるのですが、いざ誘ってみるとすんなりと参加に応じてくれる若者は殆どいません。いくらこちらが「楽しくてためになるプログラムだ、参加すればわかる」と言葉を尽くして説明しても、今まで参加した事がないのだからわかるはずがありません。最後の決め手は「楽しくてためになる」と語るロータリアンを若者たちがどこまで信頼してくれるかにかかっています。信頼されるためには、こちら側に先ず子供や若者達をいつくしむ心がなければなりません。不用意な言葉で心を傷付けないようにしなければなりません。プログラムを直接企画運営する側は尚更です。愛がなければせつかく捧げられた時間も、時間をかけて準備されたプログラムも無益なものとなるでしょう。愛されることによって人間は、愛する事のできる人間へと育てゆくのです。愛情あふれるロータリアンと接することによって、人を思いやることのできる人格が形成されていくことでしょう。

「Fellowship through Service」はすべての新世代プログラムに共通した言い得て妙の基本姿勢です。即ち、良い友達作りです。ロータリーは、次の時代を担う若者たちが健全な社会人に、そして品位ある国際人に成長してくれることを願い、先にあげた5つの新世代のためのプログラムを設け、その中で良き友達作りがなされることを願っています。そしてロータリークラブはその模範となる事が期待されているのです。